

平成25年度  
下野市  
集団健診

# 40・45・50・55・60・65・70・75歳対象 「胃がんハイリスク検診」を導入します

## 胃がんハイリスク検診とは？

従来のバリウムを飲むX線検査とは異なり、**血液検査**によって胃の粘膜の状態を調べ、**胃がんにかかるリスク(危険度)**を確認する検査です。

### 各検査の特徴

#### 従来の胃がん検診

- ・バリウムによるX線検査
- ・胃の内壁の状態を視覚的に調べる

#### 胃がんハイリスク検診

- ・**血液検査**による
- ・胃の内壁の状態を検査値で把握する

## 胃がんハイリスク検診のしくみ

胃がんの発生には

- 1 胃の粘膜の萎縮(老化)＝「萎縮性胃炎」
- 2 細菌の感染(ヘリコバクター・ピロリ菌)

が大きく関わっています。そのため、2種類の検査を組み合わせることで、胃がんにかかるリスクを判定することができます。

### 1 ペプシノゲン検査(PG検査)

胃粘膜の萎縮により、血液中のペプシノゲン(胃酸のもと)の値が減少します。

この値を測定する事で萎縮性胃炎の進行度がわかります。

### 2 ヘリコバクター・ピロリ抗体検査(HP検査)

胃がヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)に感染すると、特殊な抗体が生成され、血液中に流れます。この抗体を測定する事で、ピロリ菌に感染しているかどうかわかります。

## 検診の対象者について

### 《検診の対象となる方》

平成25年度中に、次の年齢になる方は、原則として「胃がんハイリスク検診」となります。

《胃がんハイリスク検診対象年齢》**40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳・75歳**

ただし、バリウムでの検診を希望する方や、胃がんハイリスク検診の対象とならない方についてはバリウム検診を受診することができます。

### 《検診の対象とならない方》

次の方は、判定が困難または治療が優先されるため、胃がんハイリスク検診の対象となりません。検査については、担当医にご相談ください。

対象除外項目	除外理由
明らかな上部消化管症状があり、胃や十二指腸の疾患が強く疑われる	保険治療の対象
食道、胃、十二指腸疾患で治療中	保険治療の対象
胃酸分泌抑制剤服用中もしくは2か月前以内に服用していた	ペプシノゲンが高く出る
胃切除後	ペプシノゲンが高く出る
腎不全(クレアチニン値が3mg/dl以上)	ペプシノゲンが高く出る
ピロリ菌を除菌済	医療機関での経過観察者